

日野市立教育センター一所報

# 教育センターだより

第37号 平成27年11月13日発行



平成27年8月27日

夏季若手教員育成研修（2・3年次）

## 日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分

～午後5時15分

# ひのっ子の成長を支えるために

日野市教育委員会 教育部  
学校課 統括指導主事  
重山 直毅

10月23日の日野第七小学校を皮切りに、研究奨励校等の研究発表会が開催されています。これまで進めてきた研究の成果を市内だけでなく、都内・他府県にも発信していきます。研究奨励校の研究成果は、「自校の改善のみならず、市の共有財産として蓄積し、優れた実践が各校の実践に取り入れられ、さらに深化していく。」そうした研究のスパイラルが構築され、全体の教育活動の質が高まっていくことを願っています。

日野市教育委員会では、日野市学校教育基本構想において、「ICT活用教育の充実」「特別支援教育の充実」「幼・保・小・中連携教育の充実」「生活指導の充実」を重点施策に掲げ、大型液晶モニターや実物投影機などのICT環境の整備や授業のユニバーサルデザイン化など、全ての子供たちの成長を支える環境整備や授業改善等を行ってきました。平成26年3月にこれらを基盤とした第二次日野市学校教育基本構想を策定しました。今年度は、これからの学校教育の目指す方向について検討する「学ぶ力向上推進委員会」を立ち上げました。全小・中学校の代表者と専門家が、次代を担う子供たちが、「どのような力を身に付ければよいか」、「どのような学びが必要か」、「そのための授業はどうあるべきか」などについて、学習指導要領の改訂も見据えながら、熟議を行っています。



2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。今の小・中学生が、スポーツに取り組むこと、運営に関わること、観戦すること、ボランティアとして関わること、他国の文化や歴史を知って応援することなど、様々ななかかわりの中で大きな感動を受け、その後の生き方に大きな影響があるものと考えています。東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた機運を生かして大きく2つを柱に各学校でのオリンピック・パラリンピック教育を進めています。

## 第一に、体を動かすことの大切さ、楽しさを根付かせることです。

運動が得意な子は、伸ばし、中には選手として活躍する子供も出てくるかもしれません。逆に不得意な子供が、体を動かすことの楽しみを知り、生涯にわたって運動に親しむような、生涯スポーツの基盤をつくっていきたいと考えます。オリンピックやトップアスリートによる授業は、第一線で活躍している方からの指導やお話を通して子供たちが目を輝かせ、変わっていく大変貴重な機会となっています。

## 第二に、国際理解に関することです。

ふるさと日野を知り、自国の文化を知り、それを発信していくことのできる子供たち、そして、オリンピック・パラリンピック開催に際しては、様々な国の方が東京を訪れますので、日野のことや自分の国のことを伝えられること、そして他国の文化や精神性など様々なことを学ぶ機会であり、日本人のおもてなしの心を発揮するチャンスでもあると考えます。この2本の柱を踏まえ、各学校が特色ある取組を行っています。

日野市教育センターでは、教員の経験年数に応じた研修や調査研究を通して、各学校の教育実践への指導・助言、支援を行っていただいています。今後も、次代を担う、全てのひのっ子の成長のために貢献していただくことをお願いし、挨拶といたします。

# I. 調査研究部

## 1. 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

教員の指導力向上に直結する理科室の整備の進め

教育センターでは理科教育の支援の一環としてこれまでも理科室の整備に関する情報を適宜紹介してその重要性を説くだけでなく、理科教育担当所員がCST専属理科支援員とともに主に小学校に出向いて整備のお手伝いを行ってきました。また、機会あるごとに理科室の活用、整備などの状況を教員とともに報告し合い具体的な改善を提案し学習活動に生かせるように努めてきました。この目的で本年度、夏季休業前に理科ワークショップの研修内容として理科室の整備を取り上げました。この講座の講師には、理科教師として長く教壇に立たれていた経験と校長先生として日野市立公立学校の理科教育発展に深く関わり指導的立場から日野の理科教育の発展を支えてこられた、元CST専属理科支援員の大澤真人先生にお願いし、長い現場経験からにじみ出る『夏季休業中の理科室整備のコツ』を教えていただく講習会とさせていただきました。

大澤真人先生は、現在も日野市の理科教育推進委員会委員を努められ、また平山小学校を中心として市内の小学校理科支援員として理科教育を支えてくださっていらっしゃいます。

7月10日(金)に平山小学校理科室で行なった第3回理科ワークショップ(小学校理科実技研修会)の様子を抜粋して紹介します。

大澤真人先生 右は当日の資料抜粋



戸棚の中に入っている器具の表示



使いやすく整備された実験室の戸棚

本年度理科ワークショップの実施にあたり特に配慮していることは市内全

小学校が持ち回りで会場校を担うようにすることです。他校の良い点、改善すべき点を学び取り理科室整備を進め、教員が意欲を高めて授業改善のできる指導力向上に直結することが願いです。

### 第35回理科ワークショップ(旧CST講座)

「理科室の整備に向けて」～平山小学校での実践を通して～

2015.7.10(金) 平山小学校理科室

#### 1. 実践のポイント

小学校理科の目標達成を目指すために、

- (1) 問題解決学習を深化させるため授業の改善と授業の質を支える適切な教材等の準備が欠かせない。そのためには理科室および理科の環境整備が重要。
- (2) この整備に当たって、どの単元でも二人一組で実験観察が出来る数量を整備することとし、各担任の理解を得ながら、既存の教材等を有効活用し、出来るだけ予算をかけずに、年間を通して整備を進める。
- (3) そして、その教材等は活用しやすく多様な活動を促せるように、また、片付けやすくするなど、子どもにとって理科に親しめる環境を整えること。
- (4) 使用教材は、使えば必ず傷んだり壊れたりすることが日常茶飯事であり、使用を始める時点で必ず予備の教材教具が確保できるように努める。
- (5) 各学年の考えや意見を生かしながら、理科TTと支援員が整備を進めた。一般的には理科主任が、校内の理科の組織の中心となって、例えば長期休業中などに整備を実施したり、通常の学期の中で毎月、毎週など様々な学校にあった方法で年間を通して計画的に実施していくことが望まれる。

## 2. 郷土教育推進研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

### 1 改めて郷土を見つめることの意味

例年、厳しい暑さの中でフィールドワークを続けてきましたが、今年は11回目となりました。書籍やインターネットを利用しても郷土へ理解を進めることもできますが、実際に目で見たり、感じたりすることで理解を深めることの意義は大きいと思います。とりわけ、日野は歴史的な文化遺産も多く、そのことへの理解を深めることは、郷土を愛する心の育成にもつながっています。今年度は、東光寺地区のフィールドワークを行いました。この地域が「日野のふるさと」と言われるだけに多くの見どころがありました。

### 2 日野宮権現の仏像

日野宮権現には3体の仏像が安置されています。このうち左端の立像は、日野市指定の文化財で室町時代に造られた阿弥陀如来立像です。坐像と日野市有形文化財の立像は江戸時代に造られたものですが、立像の裾の部分はウナギに似ており昔、この地域が洪水になった時、ウナギに助けられたという昔話と結びついています。650年以上昔の立像が現在もこの地域にあり、地域の生活とも結びついていることに改めて驚かされます。また、こうした文化財を熱心に守り、多くの人に紹介しようと努力してくださっている方がいらっしゃることに敬意を表したいと思います。

こうした地域の伝統が必ず次の世代にも引き継がれていくことでしょ

### 3 日野用水開削448年

私たちは何気なしに見ている日野用水ですが、間もなく450周年を迎えようとしています。この用水があったから、日野市は豊かな米どころとして幕末には、大いに文化が栄えたのです。この東光寺地区には現在でも田圃が多く残り、かつての日野三千石を偲ぶところも多かったです。また、用水に沿って歩くことで用水開削に当たって苦勞したであろうことも具体的に理解することができました。



### 4 神明神社のおつけ



厳しい暑さの中でほっと一息、神明神社の昔話を聞きました。この神社の位置ですが日野台地の北の端にあり、多摩川と谷地川のぶつかる地点に近いところにあります。日野と八王子の境を決めるために、一番鳥の合図で馬を走らせることにしたそうです。八王子は餌を与えて、日野は餌を与えないで走らせました。結果は餌を与えた八王子の勝ちであったといいますが…。これは川の流れが定まっていなかったという証なのでしょう。

### 3. ひのっ子教育21開発委員会研究

#### 基礎調査研究係

ひのっ子教育21開発委員会では日野市内の小・中・高から10名（小学校4名、中学校4名、高等学校2名）の開発委員と小・中・高の管理職が集まり、英語教育における、小・中・高の連携を図る中でひのっ子の学習意欲の向上と基礎的・基本的な知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力を育成する、魅力ある授業づくりを目指し、よりよい授業モデルを提案していきます。

2年間の研究の中で、今年度は、小・中・高の連携を踏まえた、効果的なALTを活用した授業の在り方について提案していきます。以下、現時点までの実践報告を記載します。

#### 研究テーマ

「外国語活動・外国語（英語）科における  
魅力ある授業づくりプロジェクトの研究」

#### \*サブテーマ

『小学校外国語活動と中学校外国語・高等学校外国語の円滑な接続』

第1回 4月28日（火） 日野市立日野第一中学校

- ・今年度の研究方針について
- ・小・中・高等学校の英語の指導の在り方やALT活用方法等を学ぶ。

\*年間指導講師

『東京家政大学 人文学部英語コミュニケーション学科 太田 洋教授』

第2回 5月26日（火）

- ・子供たちを向上させる英語の指導法や年間指導計画の在り方についての研究
- ・英語教育推進リーダー研修会報告（三沢中学校 佐藤 真雄主任教諭）

講演「小・中・高における英語授業の在り方」

講師 東京家政大学 人文学部英語コミュニケーション学科 太田 洋教授

第3回 6月23日（火）

- ・小・中・高の系統立った英語教育の指導法について(ALTの活用を通して)
- ・ALT活用の実態についての意見交換

・講演 「ALTを活用してどんな力を付けさせるのか？」

講師 東京家政大学 人文学部英語コミュニケーション学科 太田 洋教授

第4回 7月14日（火）

研究授業（中学校）……ALTを活用した研究授業（第3学年対象）

授業者 日野第四中学校 岩尾 京子教諭

講師 東京家政大学 人文学部英語コミュニケーション学科 太田 洋教授

第5回 10月1日（木）

- ・分科会研修

小学校→研究授業の指導案の検討、報告書の内容検討

中学校→小・中の連携の視点を踏まえたALT活用事例の検討

- ・講演「小・中・高と連携した英語教育におけるALTの活用について」

講師 東京家政大学 人文学部英語コミュニケーション学科 太田 洋教授

第6回 10月22日（木）

研究授業（小学校）……ALTを活用した研究授業（第6学年）

授業者 日野第六小学校 阿部 梢主任教諭

講師 東京家政大学 人文学部

英語コミュニケーション学科 太田 洋教授

今後の予定として、2月9日（火）に1年間の研究の成果を発表し、研究で得られた成果を各学校の英語指導に関わる方々にお渡しします。



## II 研修部

### 教職員研修係

教育センターは、日野市教育委員会学校課が計画した日野市立幼稚園、小・中学校教職員の研修事業を進める際に必要な業務を行っています。その主なものを紹介します。

#### (1) 若手教員育成研修(1・2・3年次)

若手教員育成研修(1・2年・3年次)の授業観察及び指導を行っています。1年次教員は、学習指導案が適切に作成されているか、授業が計画通り実施されているか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているか等の観点で授業を観察しています。指導員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら指導に当たっています。2年次教員については、指導のねらいを明確にし、授業の流れを工夫した学習指導案を作成した上で授業に臨むように、授業後には授業評価を行い、改善策を考えていけるように具体的に指導しています。3年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行うようにアドバイスをしています。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導助言にあたっています。



#### (2) 夏季全体研修会

7月22日、日野煉瓦ホール(大ホール)で、日野市教育委員会夏季教員研修の全体研修会が開かれました。第1部は「ユニバーサルデザインの視点による小学校算数科の授業」で、小学校4年の算数科「面積」の単元で公開授業が行われました。授業者は筑波大学附属小学校 盛山隆雄先生で、ステージ上で行われた授業実践は多くの先生に「全員理解の授業」についての考えを深めるものとなりました。第2部は「授業のユニバーサルデザイン」について公開協議会が行われ、第3部は「全国学力・学習状況から見てきた日本の子どもの学力」と題し、国立教育政策研究所学力調査官 小松信哉先生から講演がありました。

教育センターは、全体研修会の開催に向け、日野市教育委員会と協力して、立看板を準備、受付名簿を作成、当日の受付をして、参加者の状況把握等を行いました。



#### (3) 若手教員育成研修(2年次・3年次)

8月27日、日野第一中学校を会場にして、2年次の教員が午前の半日、3年次の教員が午後の半日と、半日単位で若手教員育成研修が開催されました。2年次教員は8グループ、3年次教員は7グループに分かれ、それぞれ一学期に実践した事例を発表し、学習展開の方法や教材教具の工夫等についてグループ協議を行いました。



センター所員は、午前・午後の一日、グループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言を行い、それぞれ課題をもって2学期に臨むように励ましました。

#### (4) 教育課題研修会

夏季休業中に実施された、人権教育、外国語活動、特別支援教育、理科実技、動物の見方、昆虫のスキルアップ、郷土教育、がん教育、総合的学習の時間、俳句の各研修会の支援業務も教育センター研修部が行っています。各学校からの受講申し込みの取りまとめ、参加人数の把握や、受付名簿の作成、参加状況の把握等を行いました。

### Ⅲ 学校生活相談

#### － 不登校児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」－

学校生活相談係は、何らか（心理的・情緒的等）の要因や、様々な状況によって不登校や登校しぶりの状況にある児童・生徒を適応指導教室「わかば教室」（以下「わかば教室」という。）で受け入れ、生活や学習の支援及び指導を行なっています。

児童・生徒は学校で、安全で、健康で、明るく落ち着いた雰囲気でも過ごし、一人一人が安心して意欲的に学習や行事などに取り組めることが大切です。学校生活相談係は児童・生徒が「わかば教室」での生活を通して、安心して日常の生活が出来るように支援することだと考えています。

しかし、現在の学校生活における児童・生徒は複雑で様々な課題を抱えています。その複雑な課題に対応していくために、学校・保護者・関係機関とも連携していくことが必要です。

わかば教室では、通室者の心のケア・学力向上・体力増進・社会性の育成等を図るため、一人一人に対応した支援を心掛けています。また、相談活動（定期的・随時）を充実させ、また、行事〔下記(2)〕を行なう等、人間関係を深め、社会的な実践力を培い、児童・生徒の活力向上（心と身体のエネルギーを高める）を図り、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

#### (1) 学校との連携

「わかば教室」では、市内各小・中学校と連携し、児童・生徒の生活改善と学校復帰に取り組んでいます。そのために各学期に「適応指導教室連絡会」を設け、通室している児童・生徒が所属する学校の管理職や担任及びコーディネーターとの面談・情報交換を実施し、その中で指導方法を検討・改善したりしています。また年間1～2回、市内の全小・中学校を登校支援コーディネーター（本年度はSSWも同行）と訪問しています。

#### (2) 『わかば教室』の行事について

『わかば教室』では、児童・生徒の社会性や集団適応能力の育成のために、学期ごとに様々な行事を行なっています。遠足・お茶会・図書館訪問・老人ホーム訪問・社会科見学・音楽会、更には誕生日会・収穫祭（調理実習）・スポーツ大会など、児童・生徒の自主・自立・社会性を育むことを意識しながら計画し、実施しています。

（ダブルドッジ大会）



（春の遠足  
多摩動物公園）



#### (3) 適応指導教室「わかば教室」通級の状況（体験通室者含む）

平成 26 年度	5 月 1 日	小学生	7 人	中学生	2 0 人	合計	2 7 人
	10 月 1 日	小学生	1 0 人	中学生	2 4 人	合計	3 4 人
	3 月 25 日	小学生	1 4 人	中学生	3 3 人	合計	4 7 人
平成 27 年度	5 月 1 日	小学生	8 人	中学生	1 5 人	合計	2 3 人
	10 月 1 日	小学生	1 3 人	中学生	2 7 人	合計	4 0 人

日野市も不登校児童・生徒は、毎年出現しています。その中で「わかば教室」に通室し、心と身体のエネルギーを高め学校に復帰し、元気に通学している児童・生徒がいます。また、高校へ進学した生徒も元気に通学しています。学期・学年の変わり目は学校に復帰できる良い機会です。小さな変容を大切に、生きる力を育み、学校復帰へとつながるよう保護者・学校や関係諸機関と連携を図り児童・生徒のために努力を続けています。

# 教育資料・広報係より

## 教育センター・Webサイトの紹介

教育センターでは、学校へ必要な情報を随時提供できる“教育情報センター”としての機能の充実を進めています。

### 1 センター調査研究事業の成果の紹介

当センターでは、日野市内小・中学校の教育の充実のために調査研究事業を推進していますが、その成果をwebサイトで公開していますのでPDFファイルで見ることができます。

また、ひのっ子郷土教育研究（郷土教育推進研究委員会）で発行された「郷土日野指導事例」（第1～10集）、関連資料集も同様にPDFファイルで見ることができます。

### 2 市内小・中学校の校内研究紀要の概要の紹介

日野市内の公立小・中学校においては、教員の実践的な指導力を高めるために校内研究を進めています。当センターでは、各校の昨年度の成果を概要にして紹介しています。また、教員や教育研究者の実践的な研究に役立つために「平成25・26年度 日野市教育委員会研究奨励校」については、各校の協力によりwebサイト上のPDFファイルにダウンロードによって提供しています。

<http://www.hino-ky.ed.jp/center/>



**\* HPは今年度中にリニューアルします。**

## 新しく購入した本の紹介

\* 本年度、教育センターで購入した書物 <貸し出しますので、ぜひご利用ください>

書名	著者	出版社
今さら聞けない！特別支援教育Q&A	青山新吾編著	明治図書出版
発達障害のある子の自立に向けた支援	萩原拓編著	金子書房
高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LDの子のSSTの進め方	田中和代、岩佐亜紀著	黎明書房
教室でできる特別支援教育のアイデア 小学校編 part2	月森久江編	図書文化社
教室でできる特別支援教育のアイデア 中学校編	月森久江編	図書文化社
教室でできる特別支援教育のアイデア 中学校・高等学校編	月森久江編	図書文化社
授業のユニバーサルデザイン入門	小貫悟著・桂聖著	東洋館出版社
若手教員指導成功の秘訣	須田敏男著	明治図書出版
新任3年目までに身につけたい保護者対応の技術	中嶋郁雄著	学陽書房
子どものハートに届く、ほめる・しかる55の原則	嶋崎政男著	教究所
教師のすごい！会話術	森川正樹著	東洋館出版社
若い教師の成功術	大前暁政著	学陽書房
究極の説得力	平光雄著	さくら社
教師教育	上條晴夫責任編集	さくら社
必ずクラスがまとまる教師の成功術！	野中信行著横藤雅人著	学陽書房

○教育センターには、使用する教科書や全ての出版社の教科書を保管しています。ぜひ、閲覧した方がいましたら、教育センターの図書資料室にお立ち寄りください。

○市内教職員につきましては全ての資料を貸出ししていますので、電話、または校務支援メールでお申し込みください。交換便でお送りします。（担当 教育センター所員 尾形 斉）